

授業科目名	スポーツ指導実習 (武道指導実習)		授業形態	実習	授業科目区分	専攻科目 (指導実践科目)		
担当教員名	専修武道論・実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲの担当教員			補助担当者名				
単位数	1単位(30時間)又は 2単位(60時間)	履修年次	3年次	受け入れ人数				
授業の概要	本実習では、ディプロマポリシー達成のため、将来の武道指導者として必要な学内におけるの専門学習を基礎に、更により実践的な指導力を育成するため、柔道や剣道における指導現場での指導実習を実施することとしています。ここでは、実際の現場における生の体験を通して、学生の専門的な知識や指導技術を高め、ひいては本学内における学生の教育・研究内容へフィードバックさせることを主な目的としています。							
授業の到達目標及び成績評価の方法	授業の到達目標			成績評価の方法				
	DPで目指す資質・能力	実技指導力、事業運営力、リーダーシップ		授業期間		その他		
				授業	テスト	レポート		
				発表	定期試験	割合(%)		
■ 認知的領域	・ 訪問先の選択及び施設等研究を行う(施設等研究の作成)。 ・ 指導体験を記述・説明する(実習日誌の作成)。 ・ 指導体験を分析・評価する(所感文等の作成)。				○	○	大学評価	50
■ 情意的領域	・ 事前の訪問先の選択、施設等研究、実習準備を主体的、積極的に行うことができる。 ・ 指導体験を主体的、積極的かつ協力的に取り組むことができる。 ・ 実習後に指導体験について真摯に振り返ることができる。		○				大学及び実習先評価	30
■ 技能的領域	・ マナー及び一般常識を身につける。 ・ 指導対象との円滑なコミュニケーションを行うことができる		○				実習先評価	20
成績評価の基準	設定された指導体験の日数に参加することを条件に、事前準備や施設等研究、実習日誌、事後報告や所感文及び実習先の評価の各得点を合計し、60点以上のものを合格とする。							
テキスト、教材参考書	①本学作成の「スポーツ指導実習の手引き」を配布。 参考図書は、授業時に推薦する。							
履修条件・関連科目	「専修武道論・実習Ⅰ・Ⅱ」を修得していなければならない		備考(教員メッセージ含む)		本実習は、原則として3年次の5月～2月の間に行います。履修可能単位数は2又は1単位(1単位最低30時間)で実施します。また、実習に関するガイダンスを2年次の後期に行うと共に、実習先の選考・認定等を行います。詳細は「体育学部履修要項」、2年次後期のガイダンス等で確認してください。			
オフィス・アワー	教務課キャリア支援係へ相談ください。適宜、担当教員と連絡調整します(月～金、9:00～17:00)。							
授 業 計 画								
回	授業担当者	授 業 内 容			授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)			
1	専修武道論・実習Ⅰ～Ⅳの 授業担当教員	【事前学習】			①WebClassにより復習			
2		① オリエンテーション：武道指導実習の意義・目的・内容			②実習先研究レポートの作成			
3		② 訪問先の選択及び施設等研究			③事前準備の資料等作成			
4		③ 事前準備(履歴書の作成、挨拶状の作成、実習計画の作成：課題設定等)			④WebClassにより復習			
5		④ 実習受け入れ先等からの講話とグループディスカッション						
6		【実習活動】			⑤実習日誌の作成、挨拶状作成			
7		⑤ 武道指導実習(1単位：通算30h、2単位：通算60h)						
8		【事後学習】			⑥所感文の作成			
	⑥ 学外での指導体験の分析・評価及び今後の展望			⑦発表資料の作成				
	⑦ 事後報告その1			⑧WebClassにより復習				
	⑧ 事後報告その2							